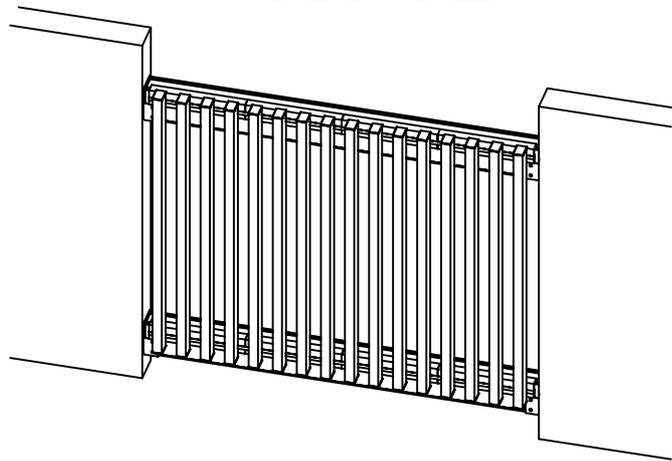


スリットラインたて格子 ウォールスタイル（壁内タイプ）

取付説明書



<目次>

● 梱包明細 P	1
● 販売店・工事店様へのお願い P	2
● 納まり図 P	3
● 部材の加工 P	4
● 梁の取付け P	6
● 格子ユニットの取付け P	6
● 施工工事店様、販売店様へのお願い P	8

梱包明細

- 施工前に、部材数量および部品数量を確認してください。また、品質に支障のある損傷が無いか確認してください。
- 取付説明書に記載している部材・部品(ビス含)以外は使用しないでください。

梱包名称		梱包内容	表内の()は個数を表しています。
たて格子部材	皮膜部材	3本入り	格子(3)
		2本入り	格子(2)
	ラミネート部材	3本入り	格子(3)
		2本入り	格子(2)
梁セット		梁(1)・セッティングブロック(22)	
アタッチ部材	12本入り	アタッチ部材(12)・φ4×12トラスタッピン3種(84[132]) 溝カバー(7)	
	10本入り	アタッチ部材(10)・φ4×12トラスタッピン3種(72[112]) 溝カバー(7)	

※[]内は細格子の場合を示しています。

●別売り品

梱包名称	梱包内容	表内の()は個数を表しています。
壁内取付金具	壁内取付金具(2)・φ5×16セルフドリリングビス(8)・取付説明書[ME-1806](1)	
コーチスクリューセット	φ6×90コーチスクリュー(4)・φ6用平座金(4)	

販売店・工事店様へのお願い

● 安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味
 注意	使用者がこの表示を無視して取り扱っていると、人的、物的損害の予想されることを示します。
お願い	「必ず行っていただくこと」を示します。

注意

- 商品に貼付されている注意・取扱説明のラベル等をはがさないでください。
- 外壁厚さは45mm以下としてください。
この範囲を超えるとコーチスクリューの打ち込みが浅くなり強度が低下し、落下するおそれがあります。
- シーリング指定箇所は、必ずシーリング処理をしてください。特に部材接合部は念入りにシーリング処理を行ってください。
シーリング処理が十分に行われていない場合、雨漏れの原因となりますので注意してください。
- 施工の際、躯体へのコーチスクリューや木ビスは、たたき込まずに確実にねじ込んでください。
また、プラグ類をモルタルやサイディング等、部分のみで固定することも大変危険ですので絶対にやめてください。
- 材料を継ぎたす等の改造は、危険ですので絶対に行なわないでください。
- 設置場所等で、地盤から高く強風を受ける場所への設置は、事前に弊社営業所にご相談ください。

お願い

- 施工を始めてから手直しが出来ないよう、事前に調査や打ち合わせを十分に行ってください。
特に設計者や工務店様と取付スペース・工程・搬入実施日・搬入場所・施工実施日等、綿密な打ち合わせをしてください。
- 製品の運搬や取付けの際は、キズをつけないように気をつけてください。また、他の工事が終了後養生テープをはがしてください。
- この商品の勝手は、外観視 右勝手・左勝手となっております。
- 建物に取付ける部材・部品は、建物の柱に確実に固定してください。
- 水平・垂直・直角は、必ず正確に出してください。正確に出ている場合、取り付けられない場合があります。
また、十分な強度が出ない場合もあり大変危険です注意してください。
- 取付けの際、ボルト・ネジ等は規定本数を確実に締め付け固定してください。
建物に孔をあけたりネジを止めたりした場所には、確実にシーリングを施してください。

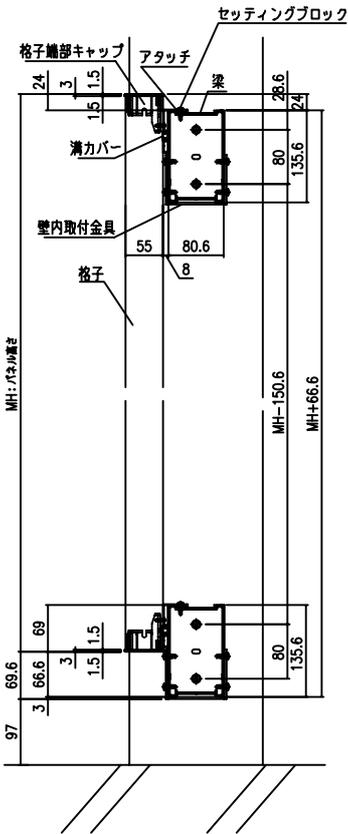
● アルミ製品を他建材製品と施工する上でのご注意

<p>新日軽のアルミ製品は、JISの表面処理規定を十分クリアーした製品をお届けしていますが、取扱いによっては異常腐蝕をおこし、思わぬトラブルとなりますので施工にあたっては次のような点をご注意ください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● アルミ製品と 銅板 や ラス 等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニルテープ等を貼るか塗装等で絶縁処理を行ってください。 ● 輸入木材 には、塩素イオン等の腐蝕成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくかアルミニウムと接触する部分は木材に塗装するようにしてください。 ● モルタル用に 海砂 を使用されますと、多量に含まれた塩分が腐蝕の原因となりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。 ● モルタルやコンクリートの 抽出液 が工事中にアルミ製品の表面に流れないように注意してください。 抽出液は強アルカリ性であるため、しみやムラ等の外観不良や腐蝕の原因となります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● モルタルやコンクリートの 凝結材 は腐蝕の発生や促進作用がありますので、その使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硫酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。 ● 施工時にアルミ製品の表面に 付着 したモルタルやコンクリート等は、速やかに清掃してください。 また、表面にキズをつけますと腐蝕しやすくなりますので取扱いに十分注意してください。 ● 腐蝕の恐れのある 接着材 や 科学薬品 を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。

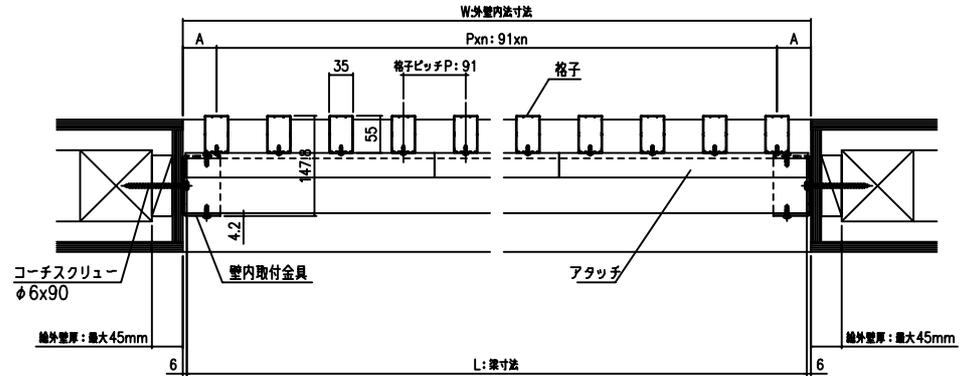
納まり図

●施工前に必ず確認してください。

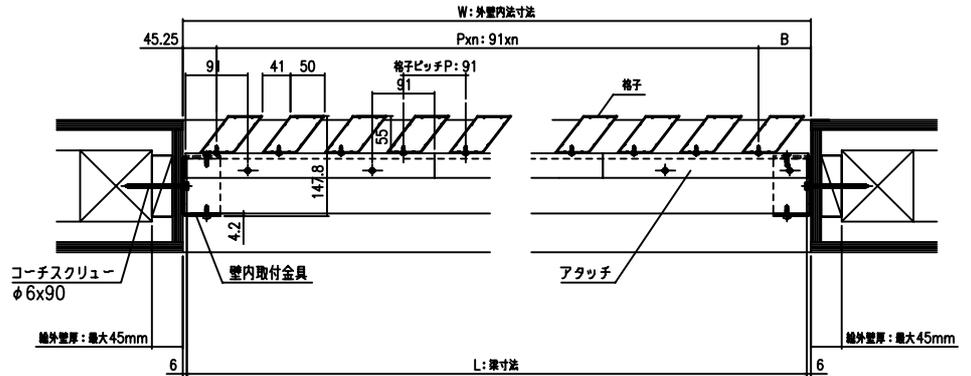
●縦断面図（35×55格子の例）



●横断面図（35×55格子の例）



●横断面図（ルーバー格子の場合）



●寸法一覧表 (mm)

呼称サイズ	MH	格子長さ
H1200	1148	1145
H1500	1448	1445
H2000	1948	1945
H2500	2448	2445

●格子ピッチ (mm)

格子の種類	格子ピッチ: P
35×55格子	91
丸格子	91
ルーバー格子	91
細格子	45.5

格子数の算出方法

●下記を参照して、必要な格子数を算出してください。

記号の説明
● N : 格子数
● W : 外壁内法寸法
● A : 壁面より1本目の格子芯まで [ルーバーの場合 A=45.25]
● P : 格子ピッチ
● B : ルーバー格子の場合に使用 (横断面図参照)

●Wに対する格子数 (P:91の例) (mm・本)

W: 外壁内法寸法	N: 格子数
1000	11
1500	16
2000	22
2500	27
3000	33
3500	38
4000	44

※ルーバー格子の場合、最大 W:3936、N: 43

◆35×55格子、丸格子の場合

$$30 \leq A \leq 75 \quad A1=30$$

◆細格子の場合

$$20 \leq A \leq 42.5 \quad A1=20$$

A1: Aの最小寸法とします。A1は最大本数を求める為の仮数値です。

●格子数を求める計算式

$$N = \{ (W - A1 \times 2) / P \} + 1$$

※小数切捨て

◆ルーバー格子の場合

A = 45.25と固定し、73 ≤ B ≤ 164でBを調整する。
B1 = 73

B1: Bの最小寸法とします。B1は最大本数を求める為の仮数値です。

●格子数を求める計算式

$$N = \{ (W - 45.25 - B1) / P \} + 1$$

※小数切捨て

1

部材の加工

- 出荷時は、梁=4000、アタッチ部材=363.5（格子P:91×4本分、細格子P:45.5×8本分）で設定されています。
- 必要に応じて部材の長さを切詰めてください。アタッチ部材はWに応じた切詰めと孔加工を行ってください。

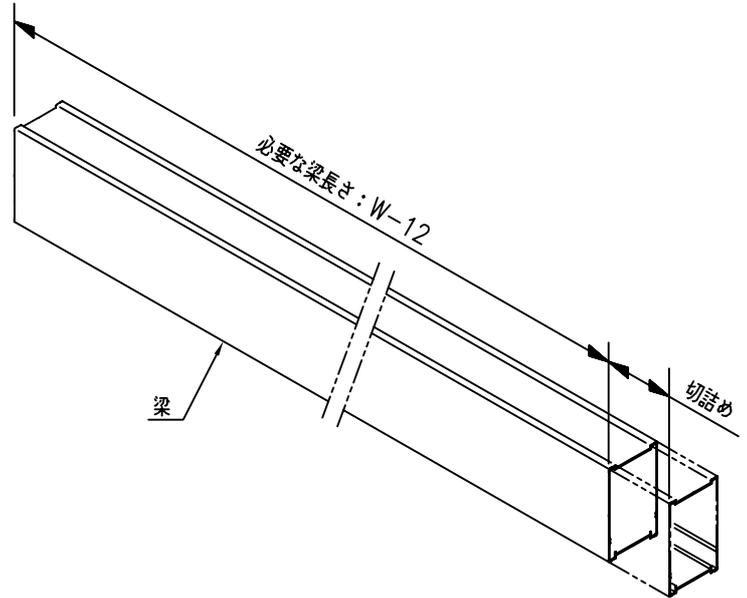
1-1 梁の切詰め



必要な梁長さ
外壁内法寸法(W) - 12mm

- (1)外壁内法寸法を計測してください。
- (2)必要な長さに梁を切断してください。

●切詰め長さ



1-2 格子の切詰め



必要な格子長さ：
格子長さ(MH) - 3mm

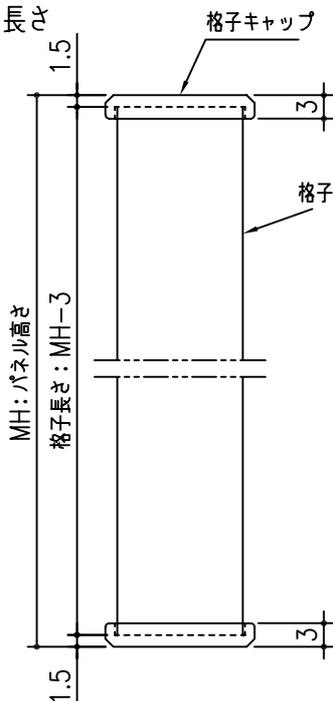
- (1)格子キャップを外してください。
- (2)必要な長さに格子を切断し、孔加工を行ってください。



肉厚側に孔加工を行ってください。

- (3)再び格子キャップを取付けてください。

●切詰め長さ



格子キャップ

上

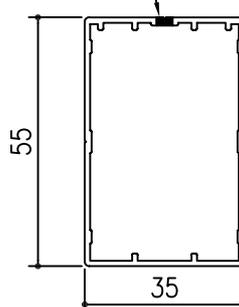
取外す

切詰め

φ3.5mmの下孔加工
(※肉厚側に下孔加工)

●下孔位置

肉厚側に下孔



必要な格子長さ：MH-3

格子

下

1-3 アタッチ部材の切詰め・孔加工

1-3-1 端部のアタッチ部材の切詰め

- A寸法に合わせてアタッチを切詰めてください。
- 切詰め寸法は、格子の割付によって異なりますので、ここでは例を示しています。
- 1ユニットに格子2本以上とします。(細格子は4本以上)
- 外観・右端側を示しています。左端側は左右対称に行ってください。

A寸法の算出方法 [ルーバー格子の場合はB寸法]

- 下記を参照して、A寸法を算出してください。

	記号の説明	
	・n	: 格子ピッチ
	・W	: 外壁内法寸法
	・A	: 壁面より1本目の格子芯まで
	・P	: 格子ピッチ

●Wに対するA寸法 (P:91の例) (mm)

W: 外壁内法寸法	n	A
1000	10	45
1500	15	67.5
2000	21	44.5
2500	26	67
3000	32	44
3500	37	66.5
4000	43	43.5

※ルーバー格子の場合、最大 W:3936、n: 42

1-3-2 アタッチ部材の孔加工

- 出荷時はアタッチ長さ363.5mmに設定されています。
- 加工寸法は、格子の割付によって異なりますので、ここでは例を示しています。
- 1ユニットに格子2本以上とします。(細格子は4本以上)
- 外観・右端側を示しています。左端側は左右対称に行ってください。

アタッチ部材必要数の算出

- 下記を参照して、アタッチ部材必要数を算出してください。

	記号の説明	
	・N	: 格子数 (n+1)
	・C	: アタッチ部材必要数

●A ≤ 45.25のとき
[または、45.25 < Aかつ (N+2) または (N+3) が4の倍数のとき]

$$C = 2 \times (N / 4) \quad \text{※余りは繰上げ}$$

●A > 45.25のとき [かつ「N+2またはN+3」≠「4の倍数」]

$$C = 2 \times \{ (N / 4) + 1 \} \quad \text{※余りは繰上げ}$$

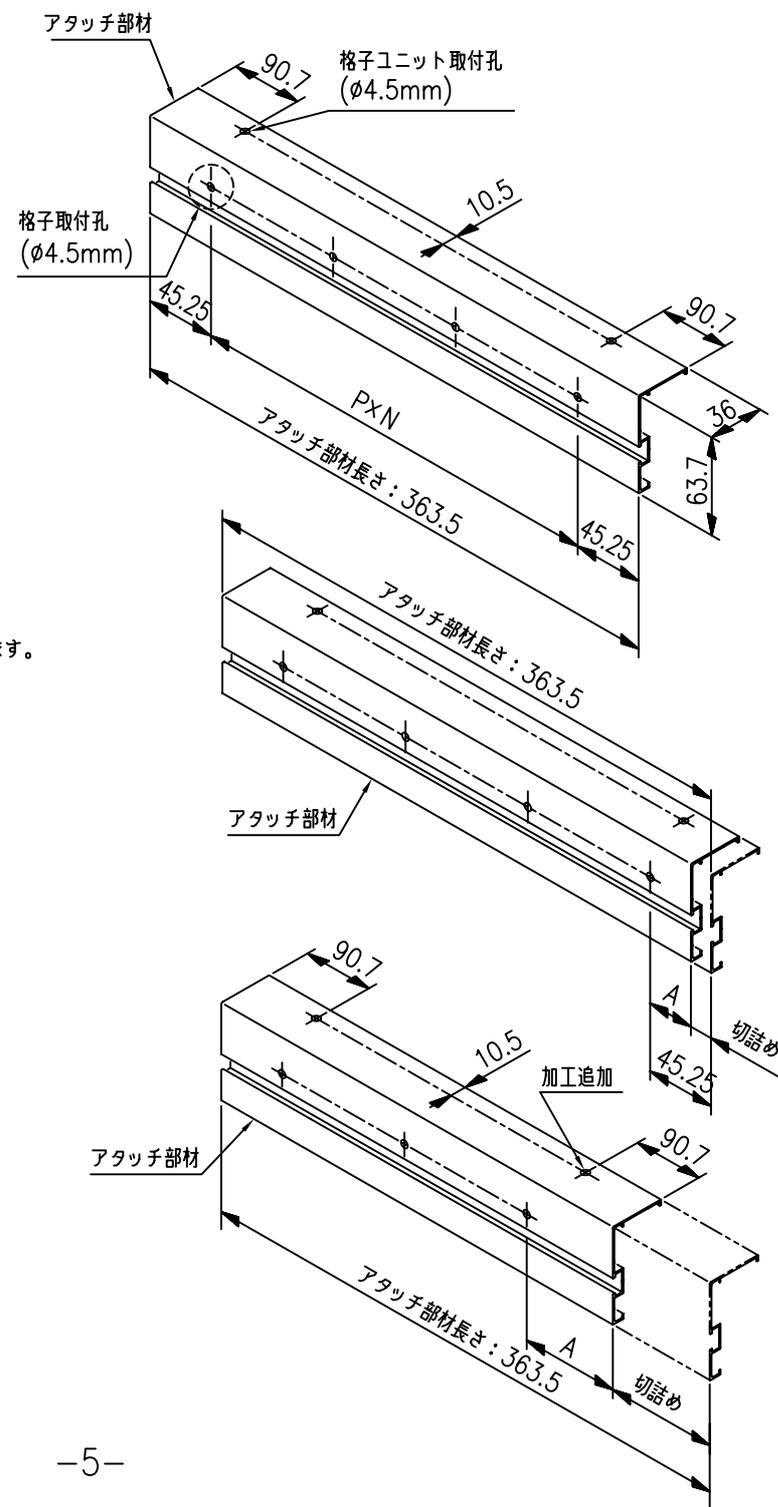
※細格子の場合

●A ≤ 22.7のとき $C = 2 \times (N / 8) \quad \text{※余りは繰上げ}$

●A > 22.7のとき $C = 2 \times \{ (N / 8) + 1 \} \quad \text{※余りは繰上げ}$

- A寸法を求める計算式 ※下図は、外観右側から切詰める場合を示しています。

$$A = \{ (W - P \times n) / 2 \}$$



2

梁の取付け

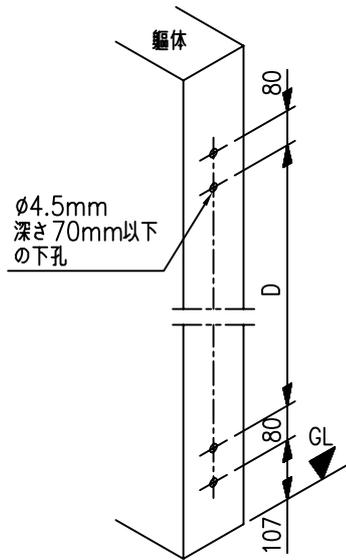
●外壁厚さ45mm以上の場所には取付けできません。

2-1 壁内取付金具の取付け

- (1)壁内取付金具の取付位置を確認してください。
- (2)躯体に $\phi 4.5\text{mm}$ 、深さ70mm以下の下孔をあけてください。
- (3)下孔にコーキング材を充てんしてください。
- (4)躯体に壁内取付金具を取付けてください。

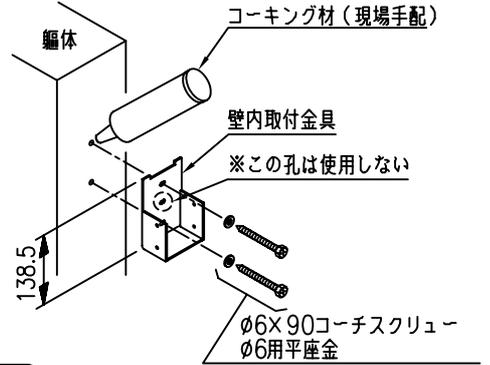


左右の金具の位置とレベルを合わせてください。



●下孔位置 (mm)

呼称サイズ	D寸法
H1200	975
H1500	1275
H2000	1775
H2500	2275



2-2 梁の取付け

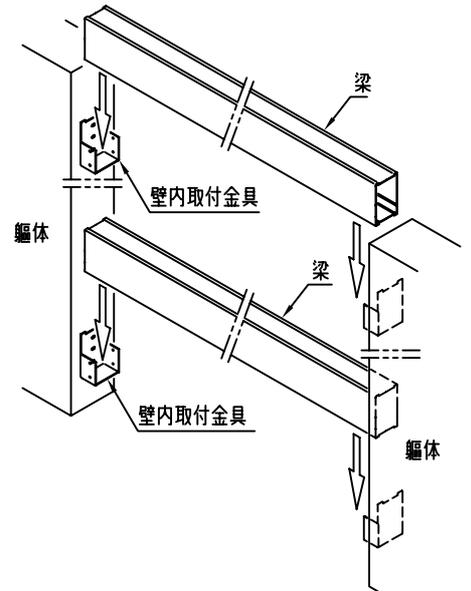
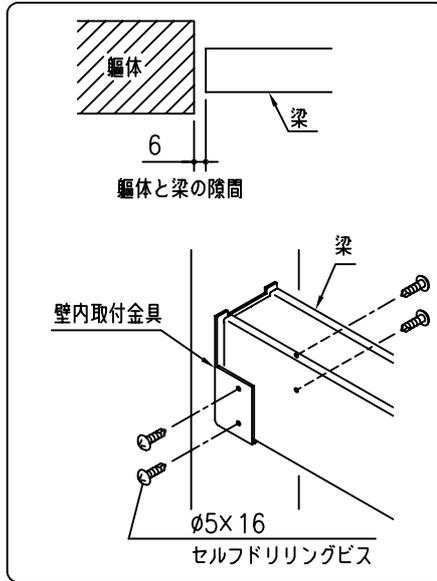
- (1)梁を壁内取付金具に載せ、左右の隙間を均等に合わせてビス止めしてください。



梁には上下・内外の向きはありません。



躯体と梁の隙間：6mm



3

格子ユニットの取付け

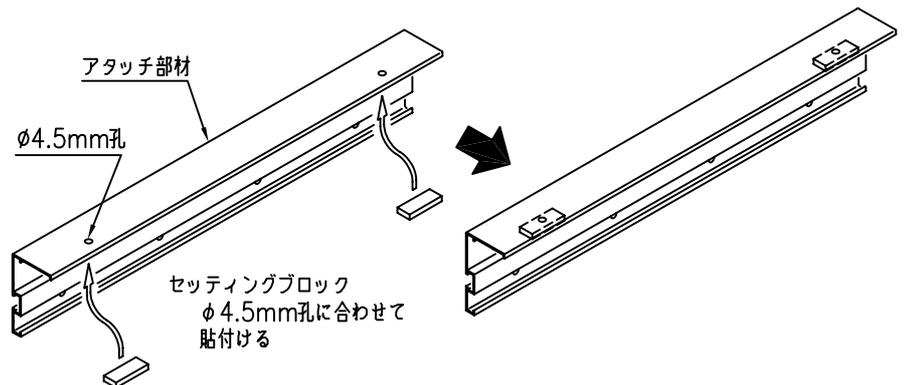
●1ユニットに格子2本以上を取付けてください。

3-1 格子ユニットの組立て

- (1)アタッチ部材にセッティングブロックを取付けてください。



アタッチ部材の $\phi 4.5\text{mm}$ の孔に合わせて貼付けてください。



(2) 2本のアタッチ部材に格子を取付けてください。

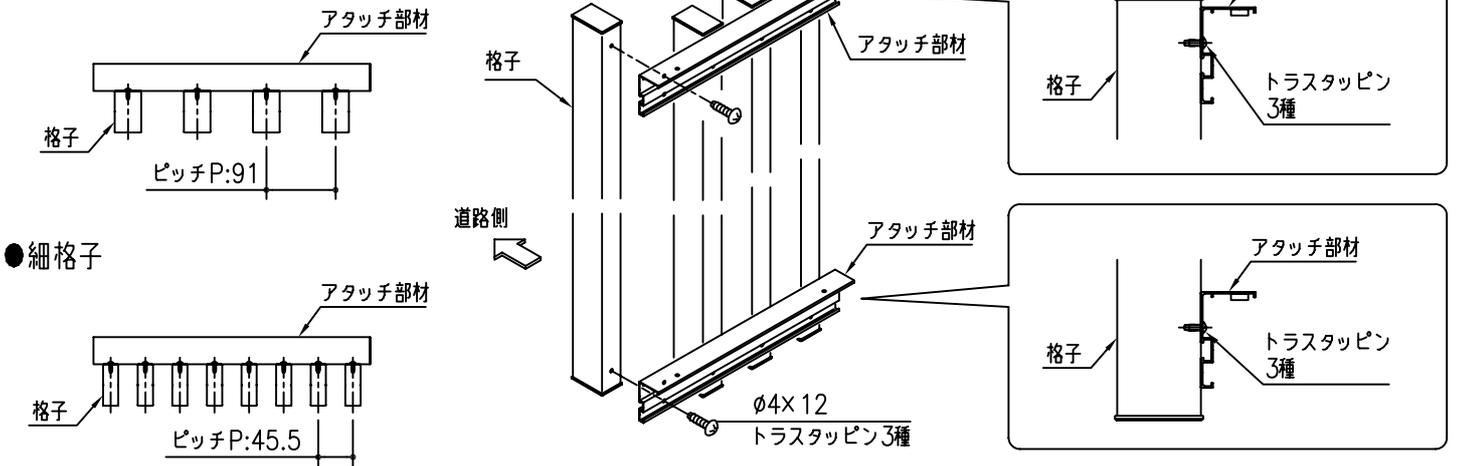
● 1ユニットあたりの格子数（参考数）

格子の種類	格子ピッチ:P (mm)	格子本数 (ユニット)
35×55格子	91	4
丸格子		
ルーバー格子		
細格子	45.5	8

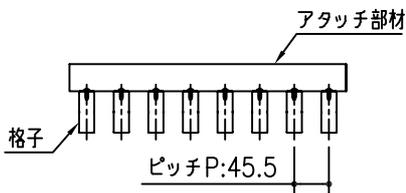
! ピスが必ず図の位置となるように組立ててください。
 ※ピス位置が違くと格子ユニットが取付けられなくなる場合があります。

● 35×55格子・丸格子・ルーバー格子

※本図は、35×55格子の場合を示しています。



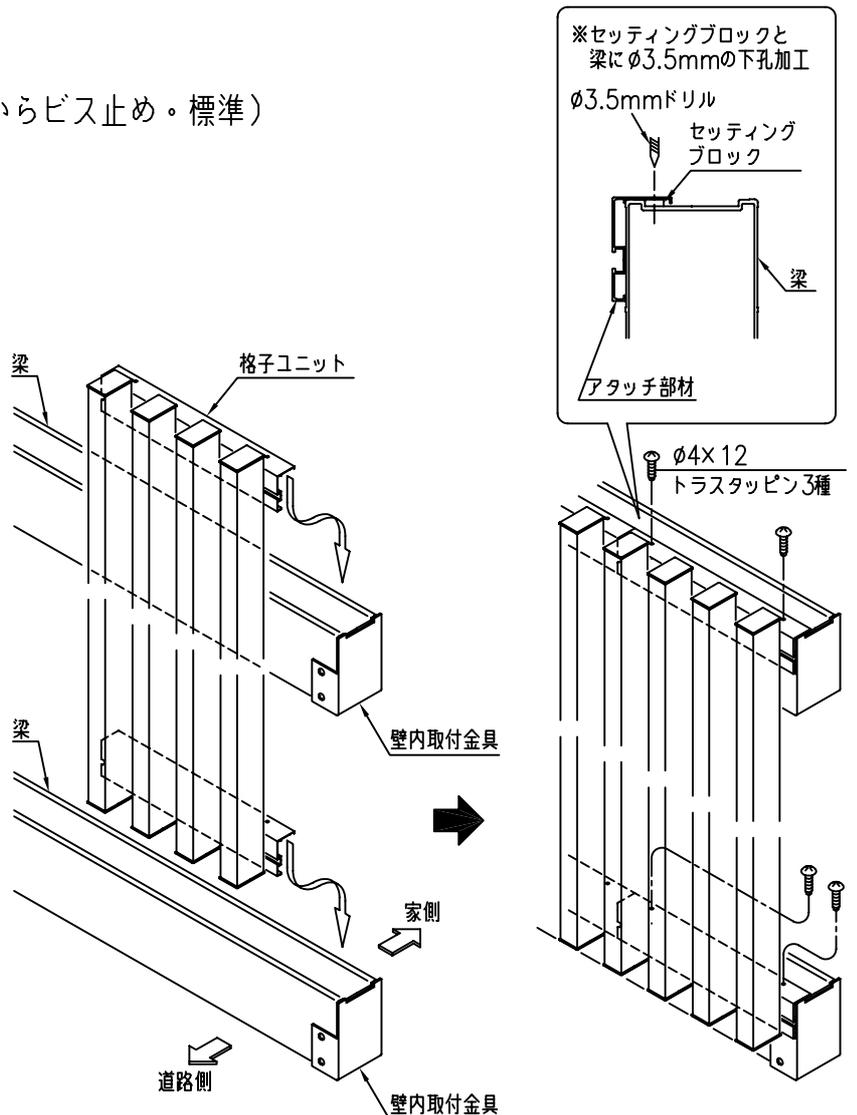
● 細格子



3-2 格子ユニットの取付け1（上面からビス止め・標準）

! 必ず、端から順番に取付けてください。
 ※端から順番に取付けないと、下側のビスを止めるときに手が入らなくなります。

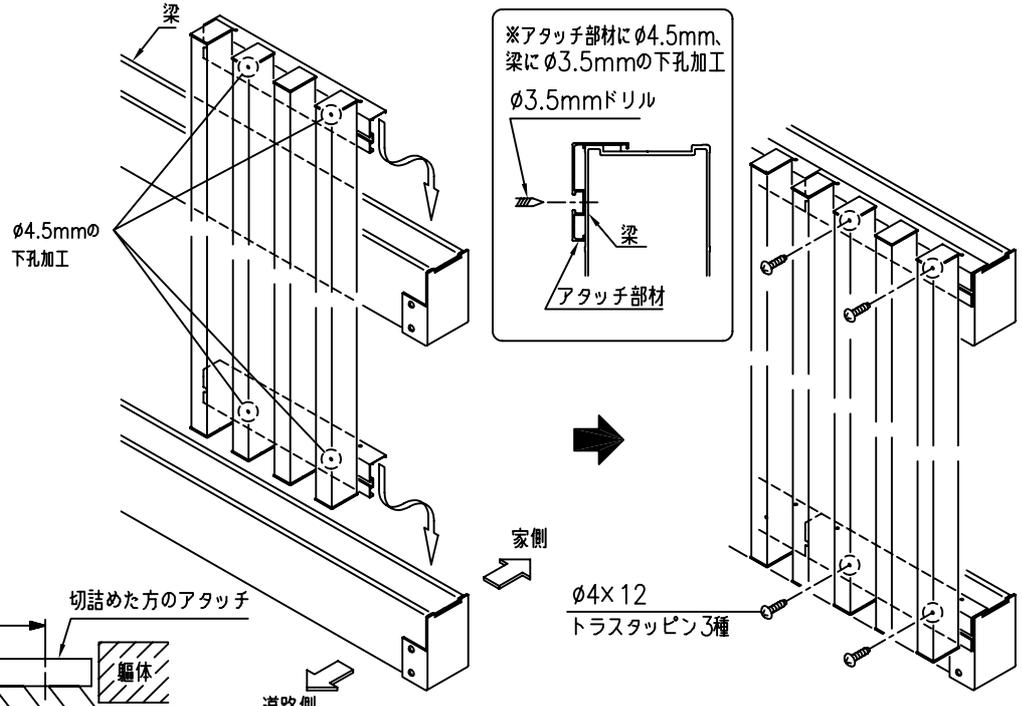
- (1) 梁に格子ユニットを載せてください。
- (2) アタッチ部材の孔に合わせて、梁にφ3.5mmの下孔をあけてください。
- (3) 格子ユニットをビス止めしてください。



3-3 格子ユニットの取付け2 (正面からビス止め・オプション)

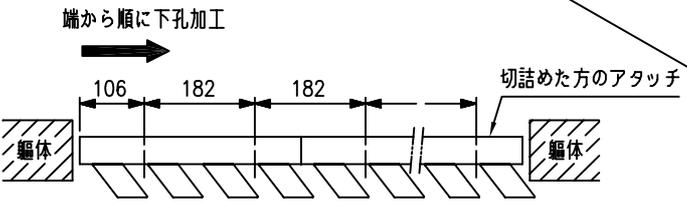
 現場の状況に応じて、正面からビス止めすることができます。

- (1) 梁に格子ユニットを載せてください。
- (2) アタッチ部材に $\phi 4.5\text{mm}$ 、梁に $\phi 3.5\text{mm}$ の下孔をあけてください。
- (3) 格子ユニットをビス止めしてください。

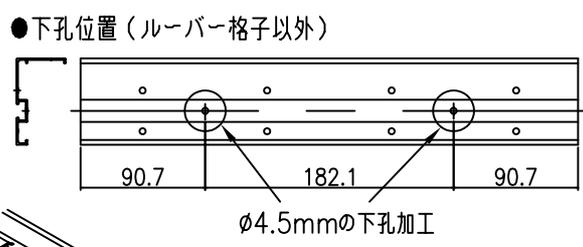


ルーバー格子の場合

- 格子の隙間に差し込んで下孔をあけてください。
- 端から順に、下図の寸法で下孔をあけてください。



隙間に差し込んで下孔加工 ※ルーバーが逆向きの場合は左右対称になります。



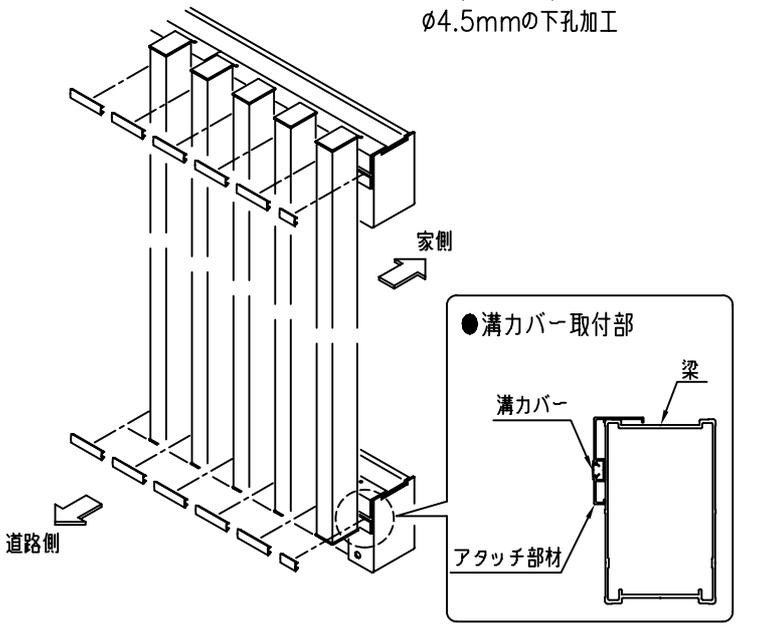
3-4 溝カバーの取付け

- (1) 下表を参照して、溝カバーを切断してください。

 万能ばさみで簡単に切ることができます。

- (2) アタッチ部材の溝に溝カバーをはめ込んでください。

	(mm)	
格子の種類	端部用	中間部用
35×55格子	27.3	55.5
丸格子	27	52
ルーバー格子	不要	不要
細格子	12	25



施工工事店様、販売店様へのお願い

- 「取扱説明書」に基づき (同梱されているもののみ) 商品の使用方法、保守点検方法およびメンテナンス方法を必ず施主様に説明してください。
- この取付説明書は、施工完了後施主様にお渡しください。

施工完了日	年	月	日
施工工事店	TEL ()		-
販売店	TEL ()		-

商品へのお問合せは…

この商品についてのご質問やご相談は下記の窓口にお問い合わせください。

お客様相談センター

 0120-126-001